

平成27年度第2回総合教育会議 会議録

開催日時	平成27年6月2日(火) 午後1時30分				
開催場所	南庁舎別館2階会議室				
会議出席欠状況	市長	津久井富雄	出席		
	教育委員	小高一紘	出席	深澤道昭	出席
		日原悠子	出席	車田宏之	出席
		川上聖子	出席		
	教育長	新江侃	出席		
	庶務	教育部長	奥村昌美	教育総務課長	益子正幸
		学校教育課	萩原孝夫	スポーツ振興課長	飯島進
教育総務課		小林真由美・渡邊政典			

次 第

- 1 開 会 午後1時30分
- 2 あいさつ 市長
- 3 議 事
 - (1) 学力向上の取組について
 - (2) 英語教育について
 - (3) タブレット教育について
 - (4) 東京オリンピックに向けた選手の育成について
- 4 そ の 他 特になし
- 5 閉 会 午後2時50分
- 6 会議の要旨 次のとおり

平成27年度第2回大田原市総合教育会議 発言要旨

平成27年6月2日（火）

開会：午後1時30分

- 教育部長 定刻となりましたので、ただいまから、平成27年度第2回大田原市総合教育会議を開会いたします。私は教育部長の奥村でございます。本日の進行を務めさせていただきます。
初めに、本会議の主催者であります、津久井市長があいさつを申し上げます。
- 市 長 (市長あいさつ)
- 教育部長 ありがとうございます。
- 教育部長 それでは、次第の3 議題について協議させていただきます。ここからの議事進行は、大田原市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、津久井市長が行います。
- 市 長 円滑な議事運営に努めさせていただきたいと思えますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。
本日の議題は次第3に記載のとおり4件でございます。
(1) 学力向上の取組について から(4) 東京オリンピックに向けた選手の育成についてまでを事務局で一括して説明をお願いします。
- 事務局（学校教育課） (萩原指導主事による説明)
(1) 学力向上の取組について
(2) 英語教育について
(3) タブレット教育について
- 事務局（スポーツ振興課） (飯島課長による説明)
(4) 東京オリンピックに向けた選手の育成について
- 市 長 事務局の説明が終わりましたので、協議に入ります。ただいまの説明に対し、質問や御意見、御感想などはございますか。

○小高委員長

先ほどの学力向上に対しての説明の中で、大田原市の取り組みや方向性は正しいと思いますが、

- ① 本市の子供たちに足りない部分とはどんなことが考えられますか。
- ② 全国学力調査の結果について、日本海側にレベルの高い県が多い理由は何かあるのですか。
- ③ なぜ子供たちの学習意欲に違いが出てくるのでしょうか。先生の資質や家庭環境の違いが学習意欲にも影響が出てくるのでしょうか。

○事務局（学校教育課）

- ① 基礎的な知識は、本市の子供たちは十分に身につけている結果が得られております。これは全国的な課題の一つですが、基礎的な知識を活用し、応用力の向上が必要であると考えます。

そこで、本市ではユニバーサルデザインの授業づくりを推し進め、クラスの中位から下位の子供たちに対しての底上げを図り、誰にでも理解できる授業づくりを進めております。

また、アクティブ・ラーニング（言語活動の充実）により、習ったことをどのように活かすか、応用していくかを今後の授業づくりに反映させていきたいと考えております。

- ② 秋田県、福井県の学力が高いという結果を報道等でも耳にします。昨年視察に行ったときの感想としては、まず、子供たちを取り巻く家庭環境も含めて、落ち着いた学習環境が安定していると感じました。

また、県全体で学力向上への取り組みが行われております。秋田県では、秋田県独自の授業スタイルが確立されており、県内どこの学校に行っても同様の授業が行われている、ということでございます。

- ③ 学習意欲への差については、やはり学習環境の違いというものが大きいと感じます。

これは、家庭環境であり、学校環境ということになりますが、差を埋めるために学校教育としては、市全体で『ありがとう運動』による自己重要感を高めていく取り組みであるとか、子供たちの自信であったり、自分は役に立っているんだという心を育成したいと考えております。

○市長

よろしいでしょうか。

それでは、そのほかにありますか。

○市 長

英語教育について、今後の取り組みの中で、地域の紹介をテーマにしながらストーリーを作り、自分たちの住む町を英語で、いろいろな方に説明できるような取り組みも盛り込んでいてもらいたいと思います。

現在、グリーンツーリズム事業で海外の方も大田原市に来訪されております。そのときに子供たちが、軽いあいさつを交わし、実践的な英語教育にもなるのではないかと思います。単に英単語や英会話ということに留まらず、英会話によるコミュニケーションを身につけ、ツーリズム事業で来訪された方々との交流によって英語スキルの向上などできればよろしいかと思います。

○事務局（学校教育課）

日々の授業が、どこに活かされるかを考えている子とそうでない子では、授業に対する意欲に大きな差がありますので、市長の発言されたことが一つのゴールとして授業の組み立てに反映できればと思います。

○市 長

例えば、須賀川小学校の子が、雲巖寺の紹介を英語でできるとか、自分の身近な環境の紹介などができる小学生、中学生がゾロゾロいるというような形が整っていけば、自ら英語を学ぶというようになっていくのではないかと思います。

○車田委員

英語を学ぶことによって、他国の文化を受け入れる姿勢が芽生えてきている、というのは単に英語圏の文化を受け入れる姿勢が芽生えたということでしょうか？

○事務局（学校教育課）

① 小学校の授業の内容では、ある国のお祭りの様子を学習したり、国際理解に関する内容も盛り込んであります。それに加えて、ALTの8名による様々な文化を持った方々の話を聞くことで国際文化に触れる機会を多く持ち、他国の文化を受け入れやすくする効果があったと感じております。

② 最近では、外国籍の子供たちが市内には、100名弱在籍しており、外国人だからといって『いじめ』などがあつたりということもありませんので、子供たちの異文化を受け入れる素地というものができているのではないかと思います。

○日原委員 タブレットの授業時数は決めておりますか？

○事務局（学校教育課） 特に制限はしておりません。ケースバイケースで効果的な使用を進めております。先生方も効果的に利用しております。

○日原委員 今後、文科省では教科書の電子化も検討されております。便利になるということは手間をかけなくなることになり、どんどん軟弱な人間になってしまうのではないかと危惧しております。日本の教育は世界に比較しても進んでいると思いますが、他国と比較して軟弱化しているのではないかと思います。学校教育の現場では、何でも簡単・便利と言わず、手間をかけることも重要であるということも認識してほしいと思います。

○深澤委員 ICTの成果があがっていると感じますが、機器の更新はどの程度のペースになりますか？

○事務局（学校教育課） 5年リースで行っております。

○市長 まず、なぜタブレット型を採用したのかということですが、今まで情報機器の授業は、パソコン室まで行かなければできなかったということが一つ理由になります。また、リース期間終了時期が、当時タブレット型の普及する時期とも重なり、同じ予算を使うなら効率の良いほうに投資しようということになりました。

このタブレットを利用することで、子供たちの学習意欲の向上、先生方の多忙感の解消、学力の向上を図っていくことが目的ですが、膨大な予算との絡みもありますので概ね5年毎の更新を進めております。

○川上委員 英語教育に対して大きな期待をしておりますが、言語教育としての英語・英会話ということだけでなく、英語を通して人と人とのコミュニケーション能力の向上を目指した授業づくりに期待したいと思います。

○小高委員長 新しい教育委員会制度が4月より始まり、大綱を策定する責任者は首長であると思いますが、市長の今後の抱負をお聞かせ願いたいと思います。

○市 長

その時代時代に合わせた人材の育成が必要であろうと考えております。それとともにいつの時代も変わらない普遍的な人としての熱い思い、知性、情に厚い、そういった人間性を持った人材の育成が大切であると考えます。

日本人としてお互い尊敬しあう、『ありがとう運動』もその一つでありますし、これをより深化し自己重要感と相手への重要感を理解し、お互いを認め合うことにより、各分野からプロフェッショナルといわれるような知的にも徳的にも高い人材を育成することが必要であると思いますし、学校教育の目的であると思います。

○市 長

ほかに質問や御意見、御感想などがありましたら、お聞かせいただきたいと思います。

ほかに質問や意見はないようですので、以上で議題に関する協議を終了します。

○市 長

次に、次第の4 その他 に移りますが、皆様から何かございますか。

事務局で何かありますか。ほかになければ事務局にお返しいたします。

○教育部長

以上をもちまして第2回総合教育会議を閉会させていただきます。

ありがとうございました。

閉会：午後2時50分

平成27年6月2日